

# 照葉の森が育む文化 綾町の自然生態系農業



自：自然共生  
資：資源循環  
低：低炭素

## キーワード

地方創生／官民連携／環境配慮型農業／食／  
ブランド化／健康・美容

## フィールド

九州  
(宮崎県)

里

## 実施体制

有機農業推進会議（町／議会／JA／生産者／消費者の  
各代表：事業計画の策定等）／  
有機農業開発センター（町役場内）／  
有機農業実践振興会（農家約370名）



## アクションの目的

環境に配慮した施設整備及び農業を実践することで、自然共生社会を実現すること。

## アクションの背景

大規模な照葉樹林が残る綾町では、町民の自然環境に対する意識が強く、1982年、九州中央山地国定公園に指定された翌年には、「自然生態系を生かし育てる町にしよう」を掲げる綾町憲章が定められた。照葉樹林を一望できる照葉大吊橋は観光名所の一つとなっている。

綾町憲章の理念を農業においても追求するため、1988年に、「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、自然生態系農業の推進に取り組んでいる。翌年、「有機農業推進会議」「有機農業開発センター」「有機農業実践振興会」が設置され、また直売所である「綾手づくりほんものセンター」が開設された。

## アクションの内容

### 【自然生態系農産物・ブランド化】

農地において1年以上、土壌消毒剤や除草剤を使用しない。

作物の栽培にあたり、化学肥料や合成化学農薬の使用を削減する。

条例の認証基準に基づき、有機農業開発センターが農地と栽培作物の管理状況について認定を行っている。

除草剤等の不使用期間や化学肥料等の削減状況に応じ、作物をA～Cの3段階でランク付けし、ほんものセンターへの出荷の際にはランクに応じて認証シールを貼っている。

### 【販売促進の努力】

町長や農家が東京などでの街頭販売に出向き、自然の生態系を生かした農法で作られた産物であることをアピールしている。

県外の生協を中心に、県内では宮崎市内のスーパーやJAの直売所で販売されている。

町立の学校の給食にも、ほとんど自然生態系農産物が使われている。

## アクションのポイント

◎「自然生態系を生かし育てる」精神のもと、町ぐるみで長年にわたり有機農業を推進してきたことで、一つの地域ブランドが形成され、首都圏からの移住者も現れている。

◎条例制定直後から町役場の隣に直売所が設けられ、小規模の生産者でも販売を行えることが、取組に参加しやすい環境につながっている。

## アクションの効果

○綾町の自然や、ほんものセンターにおける農産物の購入などを目当てに、年間100万人の観光客が訪れている。

○自然生態系農業の取組もあり、首都圏からのIターンも含め、過去10年ほどの間に町外から25名が移住し、就農している。

綾町役場 農林振興課

〒 880 - 1303 宮崎県東諸郡綾町大字南俣1128

○ TEL / 0985-77-0100 ○ web / <http://www.town.aya.miyazaki.jp/ayatown/agriculture/>